



# 人を育み“日本”を支える 両毛3都

## 【群馬県桐生市・栃木県足利市・群馬県館林市】

群馬県と栃木県にまたがる両毛地域。「両毛」とは、古代律令時代の「上毛野国(今の群馬県)」と「下毛野国(今の栃木県)」を意味します。この両毛地域にある3市(桐生市・足利市・館林市)は、隣り合っているまちで、それぞれ異なるストーリーで日本遺産に認定されています。

この両毛3市では、令和3年(2021)2月に「日本遺産 両毛3市連携共同宣言」を締結し、日本遺産を活かしたまちづくりや観光振興を推進するとともに、その魅力を国内外に発信し、地域活性化に繋げるための取組みを進めています。

桐生市

### #2 かかあ天下 —ぐんまの絹物語—



白瀧神社

■認定 平成27年(2015)4月24日

■形式 シリアル型

群馬県(桐生市・甘楽町・中之条町・片品村)

#### ■ストーリー概要

古くから絹産業の盛んな上州では、女性が養蚕・製糸・織物で家計を支え、近代になると、製糸工女や織手としてますます女性が活躍した。夫(男)たちは、おれの「かかあは天下」と呼び、これが「かかあ天下」として上州名物になると共に、現代では内に外に活躍する女性像の代名詞ともなっている。「かかあ」たちの夢や情熱が詰まった養蚕の家々や織物の工場を訪ねることで、日本経済を、まさに天下を支えた日本の女性たちの姿が見えてくる。



足利市

### #1 近世日本の教育遺産群 —学ぶ心・礼節の本源—



足利学校

■認定 平成27年(2015)4月24日

■形式 シリアル型

水戸市(茨城県)・足利市(栃木県)・備前市(岡山県)・日田市(大分県)

#### ■ストーリー概要

我が国では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示した。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれている。



館林市

### #70 里沼(SATO-NUMA)

—「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化—



城沼

■認定 令和元年(2019)5月20日

■形式 地域型(館林市単独)

#### ■ストーリー概要

関東の山々が一望できる館林では、今も多くの沼と出会うことができる。館林の沼は人里近くにあり、「里山」と同様に人々の暮らしと深く結び付き、人が沼辺を活かすことで良好な環境が保たれ、文化が育まれてきた「里沼(SATO- NUMA)」であった。館林の里沼は、沼ごとに特性が異なる。その歴史を紐解くと、里沼の原風景と信仰が共存する茂林寺沼「祈りの沼」、沼の恵みが暮らしを支えた多々良沼は「実りの沼」、館林城とつづじの名勝地を守ってきた城沼は「守りの沼」と言い換えることができる。館林の里沼を巡れば、それぞれの沼によって磨き上げられた館林の沼辺文化を味わい、体験することができる。



### 【両毛3市連携の取組み】

令和3年(2021)2月21日

館林市日本遺産シンポジウムにて3市長のパネルディスカッションを開催。今後の連携に向けて「日本遺産 両毛3市連携共同宣言」を締結。

令和3年(2021)11月13・14日

「日本遺産サミットin小松」に3市の関係する協議会がそれぞれ参加し、PRブースの出展等を行う。

令和4年(2022)2月5日

群馬県・桐生市・かかあ天下ぐんまの絹物語協議会主催で「日本遺産ウィークin桐生」を開催。3市連携パネルディスカッション「歴史文化で紡ぐ三都市ものがたり」を行い、今後の取組みに向けたキャッチフレーズを「人を育み“日本”を支える 両毛3都」とすることを決定。

→詳細は本紙裏面

この間、3市の文化財部局・観光部局において情報交換や展示、パンフレット配布等などを相互に実施するなど、積極的な交流を行った。



### 日本遺産とは？



- ❖日本遺産は平成27年(2015)に文化庁が創設した制度で、地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化や伝統を語るストーリーを、日本遺産として認定するものです。認定最終年の令和2年(2020)までに日本国内で104件が認定されています。
- ❖従来の文化財行政が、個々の歴史的遺産を点として指定することで保存してきたのに対して、この日本遺産は、点在する個々の遺産をストーリーとしてつなぐことで、面的活用・魅力発信することを目的としています。
- ❖毎年2月13日は「日(2)本遺(1)産(3)の日」となっています。

テーマ

# 「歴史文化で紡ぐ三都市ものがたり」

■日時 令和4年(2022)2月5日(土)  
13:30~15:00  
■会場 桐生市有鄰館煉瓦蔵  
■参加者 50名

令和4年(2022)2月5日(土)~13日(日)まで群馬県・桐生市・かかあ天下ぐんまの絹物語協議会主催で「日本遺産ウイークin桐生 かかあ天下—ぐんまの絹物語—」が開催されました。開催初日には、両毛3市の市長が登場し、3市連携パネルディスカッションを行いました。3市長による各市の歴史文化の特徴のほか、日本遺産認定後の取組みと将来展望、そして両毛3市連携に向けた今後の構想などが語られ、連携強化を目指してキャッチフレーズが決まりました。本紙では、当日の様子をダイジェストとして掲載いたします。

## コーディネーター

高崎商科大学特任教授  
くまくら ひろやす  
**熊倉 浩靖さん**

昭和28年(1953)群馬県高崎市生まれ。京都大学理学部中退。群馬県立女子大学教授を経て高崎商科大学特任教授。現在、群馬県文化審議会副会長、(公財)大川美術館(桐生)・(公財)竹久夢二伊香保記念館(渋川)評議員等。



## パネリスト

### 桐生市

あらき けいじ  
**荒木 恵司市長**

昭和33年(1958)桐生市生まれ。青山学院大学卒業。社団法人桐生青年会議所副理事長などを歴任。桐生市議会議員、群馬県議会議員を経て、令和元年(2019)5月、桐生市長に就任。日本遺産の活用に取り組んでいる。



### 足利市

はやかわ なおひで  
**早川 尚秀市長**

昭和47年(1972)足利市生まれ。早稲田大学卒業。栃木県議会議員を5期務め、令和元年(2019)には栃木県議会議長に就任。令和3年(2021)4月、足利市長に就任。足利学校を含めた近世日本の教育遺産群の世界遺産登録を目指している。



### 館林市

ただ よしひろ  
**多田 善洋市長**

昭和35年(1960)館林市生まれ。日本大学卒業。民間企業を経て館林市議会議員を3期、群馬県議会議員を2期務める。令和3年(2021)3月、館林市長に就任し、「里沼!感動体験」をテーマに日本遺産を推進している。



### 熊倉さん

- 昨年度から始まった両毛3市による日本遺産連携。最初の3年間はお互いをよく知るための期間で、今年はその2年目にあたる。
- 現在104件の日本遺産が全国で認定されているが、両毛3市は隣り合うまち同士で、それぞれ異なるテーマの日本遺産を有し、連携を模索している。これは恐らく日本初の素晴らしい試みだと思う。
- 本日登壇している3人の市長だけでなく、両毛3市の住民の皆様が、ある意味で日本の次の時代を担いあっている点が、非常に重要であると考えている。



## 【第1問】

### 3市の歴史文化の特徴と、令和3年度の日本遺産に係る取組みについて

#### 荒木桐生市長

##### 【織物のまちを未来の活力に】

■桐生は1300年の歴史をもつ織物のまち。徳川家康が上杉征討の際に軍旗を所望して以来、桐生織物は縁起物として隆盛してきた。現在でもデザインから製品まで地域内で完結できる一大繊維産地。ノコギリ屋根工場は現在200以上が残り、従来どおりの機屋もあれば、レストランやパン屋、美容室など様々なかたちで活用され、首都圏から移住・起業をする人も増加中。地元力と外部力をベストミックスさせたまちづくりに取り組んでいる。

##### 【桐生ジュニアアンバサダーの認定】

■絹然記念館における日本遺産企画展、群馬県「きぬめぐり」アプリを使ったスタンプラリーを実施。日本遺産サミットin小松にて分科会「織物文化」に参加し、ブース出展を行う。親子で参加する体験型の未来創生塾では、塾生に日本遺産を勉強してもらい「桐生ジュニアアンバサダー」に認定した。インバウンド向けや観光エージェンシー向けの日本遺産モニターツアー等も開催し、しっかりと日本遺産をPRしたところ。

#### 早川足利市長

##### 【足利氏ゆかりの饗阿寺・足利学校】

■清和源氏の流れをくむ足利氏ゆかりの寺社が多数現存。饗阿寺は氏寺・邸宅として栄え、本堂は国宝指定された。また1439年開学の足利学校もあり、宣教師ザビエルが「日本中で最も大きく、最も有名な大学」と紹介。漢籍など貴重な書籍が1万7000冊以上所蔵され、吉田松陰や渡辺華山、渋沢栄一らが訪れている。

■足利も織物のまち。奈良時代から始まり、江戸期に生産拡大、昭和期に足利銘仙として栄えたが、戦後は事業者数が減少。最近市内若手事業者らが業種の垣根を越えて商品開発や販路拡大、人材育成など織物への機運を高めているところ。

##### 【子ども教育事業の積極的な展開】

■日本遺産サミットin小松へのブース出展、水戸市弘道館と足利学校で子ども交流事業を企画。子どもたちがお互いに行き来をして教育遺産を学びあう機会を設けていく。子育てサロンや老人クラブへ出前講座を行い、日本遺産の取組みをPR。近世日本の教育遺産群として世界遺産登録推進フォーラムにも出席した。

#### 多田館林市長

##### 【里沼の持つ多様性】

■館林の特徴は「沼」。つつじが岡公園、分福茶釜、館林城など地域資産は全て「沼」と深く繋がる。江戸時代や高度成長期の開発により全国の沼が姿を消したが、市内には5つ沼が残り、歴史や文化、暮らしを今に伝える。この「沼」と共生した暮らしを「里沼」と呼んでいる。日本遺産「里沼」では、茂林寺沼を“祈りの沼”、多々良沼を“実りの沼”、城沼を“守りの沼”というコンセプトで物語を作っている。それぞれの沼が違う歴史・文化を形成しながら、館林市の文化の多様性、重層性を物語っている。

##### 【学校教育への「里沼」導入】

■日本遺産「里沼」を浸透させるために、小・中学校との連携を強化。総合学習の時間に「里沼」を積極的に取入れた。「わたしたちの里沼」という読本を作成。小学3・4年生に配付しシビックプライド醸成に取り組む。「里沼」ご当地ナンバーを導入したほか、新商品・サービスも続々登場。館林市の経済効果につながるような里沼のブランディングも進めている。



## 【第2問】

### 3市の日本遺産を活用した今後の展開について

#### 荒木桐生市長

##### 【織物文化を通じた八王子市との連携】

■織物文化が共通する東京都八王子市(令和2年度に「霊気満山 高尾山〜人々の祈りが紡ぐ桑都物語〜」で日本遺産認定)との交流を新たに開始したい。

##### 【子どもガイドボランティア育成】

■「織都桐生案内人の会」に指導を受け、小・中学生、高校生のボランティアガイドの育成を行いたい。地域への誇りと愛着を持ち、自分の言葉で来訪者に桐生の素晴らしさをPRできる人材を育てる事業に取組む。

##### 【低速電動バスによる周遊】

■令和2年にスローモビリティ・スローライフを目指し「ゆっくりリズムのまち桐生」を宣言。低速電動コミュニティバス「MAYU」を観光資源として、市内の日本遺産構成文化財の周遊を強化していきたい。

##### 【重伝建地区のハード整備】

■本町周辺の「重要伝統的建造物群保存地区」と「桐生が岡公園」に至るエリアのハード整備に着手する。「日真尾邸」公開に向けた整備のほか、群馬県と共同しながら電線地中化と歩道整備による調和のとれた町並み形成を進めたい。

#### 早川足利市長

##### 【子ども交流事業の拡張】

■弘道館(茨城県水戸市)、閑谷学校(岡山県備前市)、咸宜園(大分県日田市)と一緒に世界遺産登録を目指して活動している。コロナ禍でオンライン会議が増えたことで緊密な連携を取れるようになった。現在は水戸と足利だけで行っている子ども交流事業だが、今後は備前市・日田市とも実施していきたい。



##### 【足利学校の価値の発信強化】

■織姫神社(年間54万人)と比べ足利学校(年間16万人)にはまだ集客の伸び代がある。足利学校の歴史的な位置づけや価値の発信を強化していきたい。国の文化観光推進法のテーマは、活用を重視し、文化財の一体的PRによる地域ブランド化、アイデンティティ再生を目指すこと。これは非常に大事なテーマであり、本市でも足利学校を核として文化・観光と経済の好循環を確立していく取組みを進めて行く必要がある。次年度からも足利学校をさらにブラッシュアップをし、まずは多くの人に足を運んでもらい、その価値を理解していただくような取組みを進めていきたい。

#### 多田館林市長

##### 【3密にならない「沼」の魅力】

■コロナ禍では3密にならない「沼」への来訪者が急増している。癒しを求めて景色や動植物を見ながら散策・軽運動を行う人が増え、多々良沼公園は令和2年度に115万人が来場した。

##### 【里沼！感動体験】

■今後「里沼！感動体験」をキーワードとして新たな戦略を打っていききたい。コロナ終息後のマイクロツーリズムを視野に、沼を見ながら感動を味わえるモデルコースづくりに取組む。各沼に「里沼ビューポイント」を整備し、四季折々の風景を見ていただく一方で、日本遺産「里沼」のストーリーに深く関係する構成文化財や企業ミュージアムを楽しんでいただきたい。沼を見るだけではなく、館林のうどんやナマズの天ぷら、鮒や鯉などの川魚も是非味わっていただく。次年度からは、この「里沼！感動体験」を下支えするため、新たなマネジメント組織の構築、里沼関連商品・サービスの開発支援、パイロット事業などを続々と展開していきたいと考えている。館林市民や市内企業にとっては、イメージ向上、商機拡大、シビックプライド昂揚などによって、継続・発展的な“稼げる地域資源”化も目指していきたい。

## 【第3問】

### 3市長が考える両毛3市連携の取組みについて

#### 荒木桐生市長

##### 【ボー&アロー(弓矢)による誘客】

■両毛3市に共通するのは、国道50号、渡良瀬川、織物、東武鉄道。それ以外に各市に所縁のある文豪・芸術家も多い。東武鉄道と連携して臨時列車(日本遺産ト레인)を走らせ、浅草駅から首都圏の人々を誘客したい。

■東京から館林市→足利市→桐生市を結ぶと先には赤城山がある。来訪者も多い世界遺産の「日光の社寺」や「富岡製糸場」も近隣に所在している。この世界遺産から両毛3市へ誘客するボー&アロー(弓矢)ルートを確認していきたい。



#### 早川足利市長

##### 【東武鉄道との連携など既存事業強化】

■両毛3市連携では、現行の仕組みを利用していくことも重要。例えば「ふらっと両毛東武フリーパス」や両毛地域東武鉄道観光誘客連絡会議など、東武鉄道と連携をしながら外部から足を運んで来てもらう仕組みづくりにも取組んでいきたい。

■新規事業では、構成文化財や認定ストーリーを3市相互で説明できるような人材育成や日本遺産観光ガイド養成事業、3市日本遺産周遊ツアー造成に取組みたい。足利学校に来た有名人の足跡を辿るスタンプラリーを行うことで、歴史を更に掘り起こしながら、我々両毛3市しかできない魅力ある事業も企画したい。両毛3市連携共同宣言に基づき、知恵を出し合いながら既存事業のブラッシュアップ、新規事業の展開を実現していきたい。

#### 多田館林市長

##### 【「両毛三都物語」でトップセールス】

■今年度、両毛3市をめぐる日本遺産ツアーのモデル化に向けたマーケティング調査を実施した。3市の日本遺産の見所だけでなく、観光名所や名産・名物なども味わっていただく内容で、今後のルート形成への足掛かりにしたいと考えている。

■1990年代のJR西日本のキャンペーン「三都物語」(京都・大阪・神戸)のように「日本遺産 両毛三都物語」として「日本遺産 両毛三都」＝「桐生・足利・館林」をワンフレーズで、誰もが認識・理解してくれるようPRしていきたい。将来的には、両毛3市で共同運営をするような協議会組織ができれば、県境や自治体の枠を超えた、連携強化が図れると考えている。

#### 熊倉さん

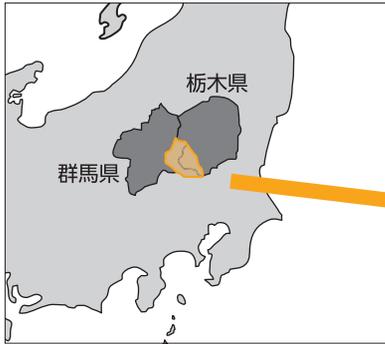
■京阪神の「三都物語」の京都・大阪・神戸は常に人が関わりあっている地域。両毛3市でもそれぞれの市の子どもたちが、互いの市を修学旅行に訪れて、学びあうような連携ができれば、人材育成など3市の交流に深みが出てくる。

■本日の会場である「有鄰館」の名のように、まさに「徳ある者は隣がある」。隣のまちのことも語れるつながりがを築き上げていくことが重要。日本の中で、ここ(両毛3市)だけの素晴らしい資産になるのだろう。

■人を育む、人材を育成することが両毛3市にとって共通する話題。今後の連携強化に向けたキャッチフレーズは「人を育み“日本”を支える 両毛3都」としたい。



# 首都圏からのアクセス



群馬県



## 電車の場合

- 東武鉄道「浅草駅」から  
東武伊勢崎線特急りょうもう号  
→「館林駅」(約1時間)  
→「足利市駅」(約1時間10分)  
→「新桐生駅」(約1時間40分)

## 車の場合

- 東北自動車道「浦和IC」から  
→東北道「館林IC」(約40分)  
※館林市街へ
- 東北自動車道「岩舟JCT」経由で  
北関東自動車道へ  
→北関東道「足利IC」(約1時間)  
※足利市街へ
- 北関東道「太田桐生IC」(約1時間10分)  
※桐生市街へ

### 【桐生市 日本遺産のみどころ】

- 白瀧神社(ぐんま絹遺産)
- 旧模範工場桐生然糸合資会社事務所棟  
(市重文/ぐんま絹遺産)
- 桐生市桐生新町伝統的建造物群保存地区  
(国重伝建/ぐんま絹遺産)
- 後藤織物(国登録/ぐんま絹遺産)
- 織物参考館“紫”(国登録/ぐんま絹遺産)
- 桐生織物会館旧館(国登録/ぐんま絹遺産)

### 【足利市 日本遺産のみどころ】

- 足利学校跡  
[聖廟および附属建物を含む](国史跡)
- 漢籍『礼記正義』『尚書正義』  
『文選』『周易注疏』(国宝(書跡))
- 釋奠(市民俗文化財)

### 【館林市 日本遺産のみどころ】

- 茂林寺沼及び低地湿原(県天然記念物)
- 多々良沼
- 城沼
- 封内経界図誌(県重文)
- 躑躅ヶ岡(国名勝)
- 正田醤油(株)旧店舗・主屋(国登録)
- 分福酒造店舗(国登録)
- 旧館林二業児番組合事務所(国登録)
- 東武鉄道館林駅
- 蛇沼及び間堀遺跡出土品
- 近藤沼(ホリアゲタ) を含む全42個

#### 問合せ先

- 認定団体  
かかあ天下ぐんまの絹物語協議会  
(群馬県地域創生部文化振興課)  
〒371-8570群馬県前橋市大手町1-1-1  
☎027-226-2326 FAX027-243-7785  
✉bunshinka@pref.gunma.lg.jp

#### ■担当部署

- 【日本遺産「かかあ天下」について】  
桐生市 産業経済部  
日本遺産活用室 日本遺産活用担当  
〒376-8501群馬県桐生市織姫町1番1号  
☎0277-46-1111(内線346)  
FAX0277-43-1001  
✉nihonisan@city.kiryu.lg.jp

#### 【観光について】

- 桐生市 産業経済部  
観光交流課 観光振興担当  
〒376-8501群馬県桐生市織姫町1番1号  
☎0277-46-1111(内線369)  
FAX0277-43-1001  
✉kanko@city.kiryu.lg.jp

#### 問合せ先

- 認定団体  
教育遺産世界遺産登録推進協議会  
(水戸市教育委員会事務局 歴史文化財課)  
〒310-8610茨城県水戸市中央1-4-1  
☎029-306-8132 FAX029-297-6187  
✉isan@city.mito.lg.jp

#### ■担当部署

- 【日本遺産「近世日本の教育遺産群」について】  
足利市教育委員会  
文化課 文化財保護・世界遺産推進担当  
〒326-8601栃木県足利市本城3丁目2145  
☎0284-20-2230 FAX0284-21-1005  
✉bunka@city.ashikaga.lg.jp

#### 【観光について】

- 足利市 産業観光部  
観光振興課 観光・コンベンション担当  
〒326-8601栃木県足利市本城3丁目2145  
☎0284-20-2165 FAX0274-21-0643

#### 問合せ先

- 認定団体  
館林市「日本遺産」推進協議会  
〒374-8501群馬県館林市城町1番1号  
☎0276-71-4111 FAX0276-74-4113

#### ■担当部署

- 【日本遺産「里沼」について】  
館林市教育委員会  
文化振興課 日本遺産推進係  
〒374-0018群馬県館林市城町3番1号  
☎0276-71-4111 FAX0276-74-4113  
✉nihonisan@city.tatebayashi.gunma.jp

#### 【観光について】

- 館林市 経済部  
つつじのまち観光課 観光振興係  
〒374-0005群馬県館林市花山町3181  
☎0276-74-5233 FAX0276-72-9122  
✉kankou@utyututu.ji.jp

### 両毛3市連携パネルディスカッション【ダイジェスト版】

「人を育み“日本”を支える 両毛3都」(群馬県桐生市・栃木県足利市・群馬県館林市)

- 発行日: 令和4年(2022)3月18日
- 発行: 館林市「日本遺産」推進協議会
- 協力: 桐生市産業経済部日本遺産活用室、足利市教育委員会文化課
- 編集: 館林市「日本遺産」推進協議会(館林市教育委員会文化振興課 日本遺産推進係)
- 令和3年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)

※本紙内容等の無断転載等は禁じます。



# 感動体験